

授業科目	作業療法評価学 I				
担当者	掛川 泰朗 (実務経験者)				
実務経験者の概要	身体障害領域の病院で複数年以上の実務経験あり。				
学科名	作業療法学専攻	学 年	2 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

作業療法評価で用いる検査・測定にはどのようなものがあるのかを知り、その方法を実技によって学ぶ。

## ■ 到達目標

1. 作業療法場面で用いる検査・測定が理解できる。
2. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で実施できる (オリエンテーション・フィードバックを含む)。
3. 作業療法場面で用いる検査・測定を正しい方法で判断し、正確に記載することができる。

## ■ 授業計画

- 第1回 オリエンテーション・ランドマークや運動方向の確認  
関節可動域測定 (上肢)
- 第2回 関節可動域測定 (上肢・下肢)
- 第3回 関節可動域測定 (下肢・体幹・頸部)
- 第4回 関節可動域測定 (手指)
- 第5回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第6回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第7回 徒手筋力テスト (下肢)
- 第8回 徒手筋力テスト (上肢)
- 第9回 徒手筋力テスト (体幹・頸部)
- 第10回 運動麻痺の検査
- 第11回 実技試験 (第1回～第10回)
- 第12回 反射検査・筋緊張の検査・握力とピンチ力
- 第13回 上肢機能検査・バランス検査・感覚検査
- 第14回 脳神経検査
- 第15回 実技試験 (第12回～第14回)

## ■ 評価方法

単位認定資格者に対し、【科目試験 (筆記試験)】40%、実技試験40%、レポート・報告20%として評価する。合格は60%以上とする。

## ■ 授業時間外の学習 (予習・復習等) について

解剖学・生理学・運動学等の基礎知識や各疾患の知識が必須であるため、事前に知識を整理しておくこと。また、授業時間内で全てを網羅することは困難である。そのため、解剖学、生理学、運動学の知識の整理、復習を行なっておくこと。レポート課題を必ず提出すること。

## ■ 教科書

書名：作業療法評価学 第3版

著者名：矢谷玲子監修

出版社：医学書院

書名：新・徒手筋力検査法 第9版

著者名：Helen J.Hislop, Dale Avers ら

出版社：共同医書出版

書名：ROM測定 第2版（PT・OTのための測定評価DVDシリーズ1）

著者名：福田修監修

出版社：三輪書店

## ■ 参考図書

書名：動画で学ぶ関節可動域測定法 ROMナビ 増補改訂2版

著者名：青木主税ら

出版社：round Flat

## ■ 留意事項

欠席・遅刻に注意すること。正確な実技と記載を心がけること。

## ■ 講義受講にあたって

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。